

文部省選定

Cinema Angel

製作協力  
ホーム・スイートホーム製作委員会  
http://www.minnanoelga.com



誰にでも帰りたい家がある

原作・脚本「名もなく貧しく美しく」の

松山善三

監督「釣りバカ日誌」の

栗山富夫

神山 繁 酒井美紀 喜多嶋舞 横山通乃 風吹ジュン 小林稔侍

製作 / 三宅一男 企画 / 古仲裕二 プロデューサー / 福山正幸 撮影 / 佐々木原保志 美術 / 磯見俊裕・郡司英雄  
音楽 / 甲斐正人 照明 / 安河内央之 録音 / 鈴木功 編集 / 鶴田益一 監督補 / 高坂勉 ラインプロデューサー / 磯崎昇  
製作コーディネーター / 藤田明男・松本晋一郎 ロケ協力 / 岩手県・岩手町



特別協賛: 株式会社日本メディケアサポート

(株)加ト吉 (株)関東医学研究所 ミツツ電機(株) 矢崎総業(株) 松下電工(株) オリックス(株)  
鐘紡(株) 朝日生命保険相互会社 丸紅(株) (株)日本医療事務センター (株)サービス

協賛: 山田建設(株) / 大東京火災海上保険(株) / 千代田火災海上保険(株) / (株)ファミリーマート / トヨタ自動車(株) / アサヒビール(株)  
西松建設(株) / HOYAヘルスケア(株) / ウェルフェアチャンネル / (株)西建築コンサルタント / (株)イメーゼライフ / (株)エアコンサービス  
(株)エイチ・エス / (株)エビックホームズ / (株)ケアタウン / 五常産業(株) / (株)三和バックング / (有)樹林運送 / 新協建設工業(株)  
晋立印刷(株) / (株)日経リビング / (株)日宣 / ホテルヴィンテージ新宿 / 丸八土建工業(株)

後援: (財)さわやか福祉財団 / (社)長寿社会文化協会 / (社)日本社会福祉士会 / (社)日本介護福祉士会 / 宅老所・グループホーム全国ネットワーク / (社)受け老人をかかえる家族の会  
高齢社会NGO連携協議会 / (財)まちづくり市民財団 / 東京都生活協同組合連合会 / 読売新聞社 / 東京中小企業家同友会 / 他15団体

# ホーム・スイートホーム

様々な暮らしの中の、それぞれの人生…  
ひとりの老人をめぐる  
心温まる家族愛のドラマ

あらずし

人の命はやさしく、人の絆はあたたかい。

元オペラ歌手、山下宏(七五歳)は痴呆症である。

部屋でも街頭でも力の限り歌い徘徊する毎日。

取り巻く娘夫婦の苦悩と軋轢は限界に達し

ある決断をする。

それは岩手のグループホーム「おぼんでがんす」の

前に宏を置き去りにすることだった。

宏は一通の手紙をもたされ、ひとりたたずむ。

「おじいちゃんを預かって下さい。」

おじいちゃんがいると、わが家は全滅、

このままでは家族崩壊です」

壮麗な岩手山、

グループホーム「おぼんでがんす」を舞台に

心やさしき日本人達のふれあいと

再生のドラマが展開する。

そして、感動のラスト、

新しい家族像が私達の前にしめされる。

## 「同じ老人は一人もいない」 松山 善三(原作・脚本)

老人介護に、解決はない。何故なら、老人千人がいれば、千人すべて異なる。同じ老人は一人もいない。千人が千人、生きた自分だけの人生と経験、悲喜こもごもの歴史を持っている。それを、ひとくりにすることは出来ない。いや、あってはならない。

政治は、百床、二百床の特別養護老人ホームをつくり、三十万人の介護福祉を育てて良いとするが、私は施設へは行きたくないし、死を迎えるまで、自立していたい。

真の介護は、何歳になっても自分のことは自分でする「自立して生きる」それを自分に課するような教育、思いやり、援助の中にある。

不幸にして、自立を失ったら、どうするか。冷たい言葉だが、死を覚悟しなければならぬ。そのための施設は必要だ。西の国には、ホスピスという例がある。日本でも、それを設けるべきだと考える。

人生は千差万別だ。だからこそ、喜びと悲しみがある。死は避けられない。終局は必ず来る。万人の中のひとりの死より、五人の中のひとりの死、僕は、後者を選びたい。老人を「社会的負担」と考えず「社会的遺産」と考えねばならない。若者達の「寛容」をうながす。小さなグループ・ホームこそが、まことの老人ホームだ。

この映画は、老いの楽しさ、苦しさ、したたかさを通じて、グループ・ホームの可能性を、みんなで考える。

明日は、自分の問題だから…。

## 「平成のファンタジーを描きたい」 栗山 富夫(監督)



この映画の主人公は、とても近い将来の僕に似てはいないか? 本当にその可能性大である。とんでもない映画に挑戦しているのです。美しくも残酷で、時にはユーモラスな平成のファンタジー…。そんなところを、監督としては目指しております。

考えてみれば、百数十年前に近代化するシステムを受け入れたとき、問題は予想し得たはず。私たち日本人の特性とも言えるおっちょこちょいな面がモロに利いてしまい、まるで洪水がやってきてしまっから、防衛を築き始めているような事態を招来しているのではないのでしょうか? 核家族は、怪物のごとき高齢社会の到来を前にして、茫然自失であります。かくいう私もその一人です。

### 解説

2000年4月から介護保険制度が導入され、高齢者の介護問題が社会的にクローズアップされてきました。この映画は、これからの高齢者の社会づくりのあり方や介護のあり方など、多くの問題を提起しています。特に高齢者を抱える家庭では、家庭崩壊まで招いています。この映画は家庭崩壊の危機を迎えながら再生していくまでを、しかも明るく描いています。

原作・脚本の松山善三氏は高齢者福祉問題に造詣が深く、グループ・ホームの提唱者であり、介護福祉をテーマにした「一本の手」があります。監督の栗山富夫氏は松竹映画のベテランで、代表作に「釣りバカ日誌」シリーズがあります。重い主題をもつ今度の映画でも、独特な手法で観客を魅了していきます。

映画やテレビドラマの線で活躍している演技陣の出演で、一層ドラマの感動を盛り上げます。また、自然は人の心を癒します。映画は、岩手県岩手町の協力を得て壮麗な岩手山を望むグループ・ホームを舞台に描きます。

中小企業家同友会に所属するメンバーが、製作資金を調達するために「エンジェル21」を設立し、あわせて製作会社の「シネマエンジェル」を立ち上げ、新たな映画づくりに挑戦し、実現させました。

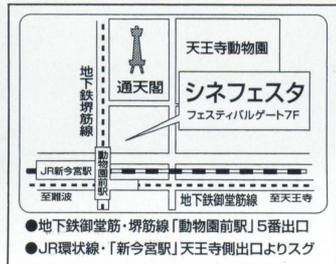
- スタッフ
  - 原作 古仲裕一
  - 脚本 松山善三
  - 監督 栗山富夫
  - プロデューサー 福山正幸
  - 撮影 佐々木原保志
  - 美術 藤見英裕
  - 編集 鈴木功
  - 録音 安河内央之
  - 音楽 甲斐正人
  - 照明 照吉 鶴田益一
  - 編集 鶴田益一
  - 監督補 高坂勉
  - ラインプロデューサー 磯崎昇
- キャスト
  - 神山繁
  - 小林稔侍
  - 風吹ジュン
  - 喜多川舞
  - 喜井美紀
  - 横山通乃



# 特別興行・2月10日(土)よりロードショー!

フェスティバルゲート7F  
動物園前 **シネフェスタ4**  
☎06(6647)7188  
各回入替制

11:00	13:30	16:00	18:30
-------	-------	-------	-------



前売¥1,400・当日¥1,800

\*シニアなど、各種割引はございません。

主催：大阪「ホーム・スイートホーム」上映委員会  
TEL 06(6944)1251

後援：大阪府中小企業家同友会